

9月24日(夜間例会)

昨日は彫刻清掃お疲れ様でした。リーダーの堀社会奉仕委員長お疲れ様でした。後ほど堀委員長の方から報告があると思いますが総勢20名以上の参加で宇部ロータリークラブの存在感をアピールできました。清掃作業の後ふるさとコンパニオンの方から今年のビエンナーレ作品の説明も聞くことができ大変有意義な1日になりました。

昭和20年代の宇部市は戦後の急速な工業化に伴う大気公害によって「日本一の灰の町」暴力団抗争・青少年の非行といった問題に悩まされていたのが、そうした社会問題を解決するための手段として、昭和30年に婦人団体による「宇部を花で埋める会」が結成され「花いっぱい運動」が開始された。市の教育委員・女性問題対策審議会委員を務めていた上田芳江さんで暴力団の喧嘩場になっている場所に花壇を作り花を植えることから始めた。「荒廃した街に人間性を取り戻したい」という切実な願いであった。花いっぱい運動と彫刻運動とは、ともに文化的な理想のまちを作るための運動として始まった。こうしたある日、整備された宇部新川駅前前の噴水池に模造の白い小さな彫刻が置かれた「ゆあみする女」である。花の種代として婦人団体が集めた20万円の金の残りで公園係が設置したのであった第1回野外彫刻展が昭和36年に常盤公園を会場にして開かれた。

38年の国体開催の年には同じ会場で第1回全国彫刻コンクール応募展が開かれ集った人びとを瞠目させた。40年から「現代日本彫刻展」と呼称を改めビエンナーレ形式になりました。神戸市は宇部市と同様都市緑化政策、一般に「宇部・神戸方式」と称されるようになった。

地方の観光資源として旭川市では「彫刻のまちあさひかわ」をアピールした。長野市では「長野市野外彫刻賞」・八王子市は、「八王子彫刻シンポジウム」・広島県瀬戸田町は、尾道の豊かな自然環境を生かして島全体を舞台にビエンナーレを開催し作品を設置する「せとだ・ビエンナーレ・しまごと美術館」を1989年よりスタートした。

宇部市創生の目玉になって日本だけではなく世界から観光客が来ることを願います。

指名委員会が10月8日開催されます。次々年度会長立候補について説明をしておきます。

宇部ロータリークラブ 細則

第2条 理事及び役員選挙

第1節 次々年度会長(会長ノミニ)の選挙

- (1) 次々年度会長候補者は、指名委員会による推薦候補者並びに、正会員3名以上の推薦による候補者とする。
- (2) 当該年度の会長は、年次総会1ヶ月前の例会において立候補者を会員に求めなければならない。
尚、立候補者の締め切りをその1週間後の例会までとし、締め切り後の例会において、候補者名を会員に通知するものとする。
締め切りまでに立候補がない場合、会長は指名委員会に再度候補者の推薦氏名を委託する。
- (3) 次々年度会長候補が1名である場合、年次総会において選挙はしない。
従って、候補は必然的に次々年度会長に選任される。 以上